

③ 同僚間のサポート体制の構築に関すること

【小・中学校】

- 「お互いさま」の意識をもち、担当外の業務についても協力する雰囲気ができている。
- 不登校傾向、登校渋り等、特別な配慮や支援を要する児童に対して、学級担任以外が協力して対応している。
- 高学年の補充学習（特設）を教職員全員で指導にあたる体制をとった。
- 管理職が積極的に授業サポートを行った。
- 各学級の学級通信を職員室に掲示し、誰でも見るようにしたことで、同僚職員の学級経営等の工夫を学び合うことができた。
- 生徒理解の時間を確保し、生徒の様子や指導の状況及び今後の指導方針等について共通理解を図ったことで、同僚間のサポート体制を構築することができた。
- 年休等に対して、時間割の変更を行って同僚間でカバーし合っているので、年休等を取得しやすい環境となっている。

【県立学校】

- 不登校生徒等の対応は、速やかにサポート会議を実施し、複数教員で対応することで学級担任の負担を軽減することができた。
- 会議記録を回覧することで、同僚間で情報の共有化を図った。
- 部活動顧問について、複数担当とし、休日の指導や出張の分担をさせるようにした。
また、外部指導者について協力の申し出があれば、依頼するようになった。
- OJTの視点で課題を見つけ、各種会議で議題にしたことで、経験の浅い職員が一人で抱え込まないようにするための環境づくりに役立った。
- 職員同士が日常的にあいさつや声かけを意識し、コミュニケーションを円滑にしたことで、授業や校務分掌等業務のサポート体制が高まった。